
※タイトル左のこちらの

枠内は、講演番号欄です

(書込厳禁)

台湾と日本における茶の流通時の品質保証と高付加価値化の現状と課題

(¹ 日本大学大学院生産工学研究科マネジメント工学専攻)

○張 ¹, 五十部誠一郎 ¹

【目的】台湾の地理と気候は茶の植栽に最適であり、様々な高品質の茶が生産されている。特にいくつかの有名産地があり、その産地での茶の製品が増加しているが、同時にこれらの原料偽装も大きな問題を起した。消費者の信頼性向上やブランドの定着のためにも産地認証システムの確立とそのシステムを利用して偽装などのない高品質の製品や新たな高付加価値化の商品などの開発が求められる。

【方法】研究の背景について台湾早期には茶葉が輸出をしているが、人手不足とか人件費の増加によって、生産コストが上昇し、結果的に輸出より国内向けが多くなっているが、茶葉生産技術が上がっており、品質や地域によると様々なブランドを確立しているであります。

そのうえで、2002年から国際貿易組織に加入したため、様々な国の茶葉を自由な輸入ができるようになったが外国から輸入した茶葉が逆に偽装などがおおくなっているため、その対応が求められているである。

そのうえに食品安全の問題に伴って、

【結果】台湾での現状のお茶ビジネスや有名産地のお茶の偽装防止のための取り組みなどの現状と課題を明らかにする。研究方法では台湾と日本において専門茶店の茶の需給が増えることで、消費者として商品の安全、衛生、品質及び産地にも注意を払うようになっており、その中で偽装対策が重要である。そして台湾と日本の茶が違うから、そのうえに茶文化を融合したビジネスの提案である。